# 世界を根底から変革し救うために

東京神学大学学長
芳賀 力

「収穫は多いが、働き手が少ない」
（ルカによる福音書 10：2）

主イエスは72人の弟子たちを選んで、ガリラヤの町や村に二人ずつ遣わしました。それはすべてこれからご自分が訪ね歩くつもりの場所でした。そしてどこかの家に入ったら、「この家に平和があるように」（ルカ10:5）言いなさいと命じました。私たちの日本、そこがガリラヤです。今この国の家々に本当に平和があるでしょうか。争いやいがみ合いばかりで、もうとっくに崩壊しているというのに、辛うじて体裁だけを保っているのではないでしょうか。だからこそそこに平和の福音を携えて遣わされてゆく者が必要なのです。生活再建の場に福音が介在しなければなりません。

キリスト教の福音は民族の垣根を越え、国家の壁を越え、歴史の星霜を越えて、全世界に及ぶに至りました。そのようにして建てられた教会は、神が今も全世界に関わろうとしておられる救いの歴史を具体的に担っている場です。しかしそこには働き手がいなければなりません。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい」（10:2）。

東京神学大学は日本基督教団立の神学校ですが、広く門戸を開いています。国際水準を維持するように最先端の神学を提供すると共に、教会とキリスト教学校に仕える働き人を送り出しています。今こそ御言葉がこの閉塞した日本社会に語り出されねばなりません。世界を根底から変革し救うために。主があなたの出番を待っています。

PHOTO: Naoko Ishiwatari